

囲いやま森の会 観察記録

2008.5.25 野口 功

日 時： 2008.5.20 (火) 10 時～ 天気： 雨

記録・写真： 山田幸子

暖かくなると、生き物が目につくようになります。作業日の前日（5月19日）、写真を撮りに行きました。するとヤマトシリアル・テントウムシ・クモの仲間・コメツキムシの仲間・ハバチの仲間・ガの仲間と、たくさんの生き物を観察することができました。また今年も会えた喜びを、繰り返される季節の移ろいの中で、嬉しく感じる時間もあります。ある本に、「自分の目で確かめ、自分で記録したものだけがあとに残り、自分の中で生きてきた道しるべとなっている。」というような内容が書いてありました。物事を追求し、筋の通ったものとして、自分の中に取り入れている姿は、眩しいものです。そんな人生を歩んでいる人は、幸せな人だと思います。日々の生活で精一杯の私には、羨ましさと見習いたいという思いが、沸き上がってきます。せめて、身近な出来事のひとコマだけでも、記憶にとどめておきたいと、観察しながら思いました。

- 1)エゴノキ に清楚な白い花が、たくさん咲いています。毎年のことながら、思わず見とれてしまいます。葉を良くみると、時々丸くなっているものがあります。これはエゴノキのオトシブミです。中にはエゴツルクビオトシブミという、オトシブミ科の黒い虫が入っています。これはメスが葉を丸めて、子どもの為にゆりかごを作ったものです。
- 2)南広場では、イタドリに負けそうになりながらも、ハルジオンが花を咲かせています。ハルジオンは、大正時代に北米から、鑑賞用として持ち込まれました。茎は中空で、つぼみの時は花序全体がうなだれています。ヒメジョオンは姿形がそっくりですが、開花時期が少し遅く、初夏に咲きます。どちらも良く見かけますが、可愛い花です。
- 3)鳥を見分ける時は、大きさは一つのポイントになります。良く見かける鳥のうち、基準になる大きさの鳥を、「ものさし鳥」と言います。カラス・キジバト・ヒヨドリ・スズメなどです。「あの鳥は、キジバトと同じくらいの大きさで…」というように使います。囲いやまでは、カラスやキジバトなどが見られます。キジバトは、「デデッポッポー、デデッポッポー」と聞こえる声で鳴きます。木の多い公園などで見かけます。巣は、木の上などに作ることが多いようです。求愛時期には、頭を寄せ合って、仲良いしぐさを見せたりします。微笑ましいですね。
- 4)良く見かけるテントウムシには、ナナホシテントウとナミテントウがいます。ナナホシテントウはテントウムシの代表格、しかし実際はナミテントウの方を良く見かけます。両方の成虫・幼虫ともアブラムシを食べます。「天道虫」と書きますが、文字どおり明るく暖かい環境を好みます。写真のトホシテントウは、囲いやまでは良くみかけますが、カラスウリなどの葉を食べます。
- 5)南広場の真ん中で成長しているオカウコギが花をつけ始めました。近寄って観察すると、薄緑で5弁の小さい花をたくさん咲かせています。枝には太い刺があります。葉の付き方も面白いので、観察してみてください。刺に気をつけて下さいね。

開花植物

木本 ミズキ・ハリエンジュ・エゴノキ・オカウコギなど

草本 ハルジオン・オオイヌノフグリ・タチイヌノフグリ・オオアラセイトウ・ノゲシ・オニタビラコ・セイヨウタンポポ・ギンラン・ヒメオドリコソウ・カラスノエンドウ・カタバミ・ノイバラ・ヤエムグラ・ハコベ・ヤブジラミ・ヤブニンジン・スズメノテッポウ・スズメノカタビラなど

鳥 ヒヨドリ・コゲラ・ハシブトガラス・シジュウカラなど

昆虫 ヤマトシリアル・トホシテントウ・ナミテントウ・クロウリハムシ・アワフキ・ガガンボ・エダシャクの仲間・コメツキムシの仲間・ハバチの仲間・ガの仲間など

クモの仲間 2～3種

キノコ スエヒロタケ・カワラタケなど

囲いやまの森

2008.5.20(火) 雨 山田幸子

小満： 陽気が天地に満ちて、草や木が生い茂ってくる頃です。日照時間が年間で最も多い時期で、囲いやまの森でも草木の花が咲き、緑が深まってきました。



緑の深まり



南広場のイタドリ



オカウコギ



ハルジオン



カタバミ



マユミ



エゴノキ



トホシテントウ



コメツキムシの仲間



誰かな？



エゴノキのオトシフミ



ノイバラと虫



ハバチの仲間



イヌザクラにシャクトリムシ



キジバト